

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570104065		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームおやま		
所在地	新潟県北区木崎 754番地		
自己評価作成日	令和3年12月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成12年4月に開設されました。グループホームおやまは、2階建てとなっており、1階3部屋、2階6部屋のワンユニットとなっております。2階居室は階段を使用しますが、自然なリハビリとなり下肢筋力アップ、維持に繋がっています。各居室が「我が家」である事を前提に、居心地が良く本音で話せる関係性を心掛けています。日々の生活の中で、各自に役割を持ち作業して頂いたり、レクリエーションや行事等に参加して頂き、グループホームの一員として元気かつ穏やかに過ごして頂く場であり、入居者様とご家族様との繋がりの場となっております。家庭菜園をする事で作った野菜を食べ、会話も弾みます。温かみを感じ安心して暮らして頂ける我が家、グループホームおやまを見て頂ければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は運営理念として「家庭的な雰囲気の中で一人一人を尊敬尊重して接する」「生きがいを持って、第二の人生を楽しんで頂く」「近隣の行事等へ積極的に参加し職員による地域貢献も含め地域の一員として生活して頂く」を掲げ、日々のケアの中で実践している。新型コロナウイルス感染症のため生活に制限がある中でも、体操やゲーム、手芸等の作品作りなど楽しみ事のバリエーションを増やしながらい利用者を楽しく過ごせるよう毎日支援を行っている。また、調理や清掃など利用者個々の力が発揮できる場面作りを行い、活き活きと立ち働く様子が見られた。外出についても家族の協力を得ながら、感染症対策を講じた中でのドライブや近隣の散歩など、できる限りの気分転換の機会を設けている。

事業所は母体法人の運営する病院、介護保険施設等の隣接する敷地内にあり、受診や住み替えの相談などで協力し、法人の利点を活かしながら利用者のサービスにつなげている。

立地的に周辺に住宅が少ない環境にあるが、地域との交流を積み重ね地域行事や清掃活動などの参加で地域とのつながりを深めてきた。現在はコロナ禍のため思うような交流ができない状況だが、終息した際には再び交流が再開できるよう情報収集など継続している。

職員間で定期的に自分たちのケアを見直す機会を持つなど、よりよいケアになるよう意見交換を重ねている。利用者の好きなことやこれまでの生活の継続、本人のペースを大事にするなど職員が意識を持って取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届く場所に掲示しており、一人一人を尊敬、尊重し意に添えるよう作業提供等行いながら、楽しんで頂ける様支援を行っている。お便りにも理念を掲げ、発信している。	理念は玄関や事務所に掲示し、広報紙の表紙にも記載している。3ヶ月に1回の職員会議で理念について話し合い、「一人一人の尊重」や「生きがいを持って第二の人生を楽しんで頂く」など、理念を利用者の具体的なケアに結びつけ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防の為、交流出来ていない。	コロナ禍以前は地区の新年会、クリスマス会などの行事や公園の草取りに参加し、地域との交流を図っていた。現在は中止されているが、地域の情報を収集しながらコロナ禍終息後に交流を再開する意向である。感染症の落ち着いた期間に買い物に出かけるなど、地域とのつながりを模索している。	
3		令和3年12月12日 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、会議は開催出来ていないが、2ヶ月に一度、グループホームの近況報告、行事報告又は入居者様の日頃の様子、事故報告を文面で伝えている。	現在は新型コロナウイルス感染症に配慮して、文書による開催としている。行事報告や活動報告、事故報告などをまとめ、委員に郵送している。	書面で丁寧に事業所の状況を伝えているが、郵送後に意見が寄せられることがなく、会議を運営に活かす取り組みにまではつながっていない状況がある。会議をサービスの向上に活かせるよう、意見聴取の方法等についてさらなる検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報交換を行っている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員にも参加して頂いている。	利用者の課題に対し、区の担当者にも相談し解決につなげた事例がある。また保険証関係など利用者に必要な仕組みについて適宜相談し、対応につなげている。地域包括支援センターの職員には運営推進会議へ参加してもらい、入居についての情報交換を行なうなど連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	令和4年1月25日 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を行ってはならない事を認識している。3ヶ月に一度勉強会を実施し、話し合いや考える場を設けている。玄関の施錠は7時から17時迄は開放されている。	3ヶ月に1回職員会議の中で身体拘束について研修を行い、スピーチロックや不適切ケアについて自分たちのケアに結び付けて振り返りを行っている。繰り返し振り返りを行うことで、身体拘束に対する職員の意識づけが図られている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に虐待はあってはならない事、通報の義務がある事を理解している。	職員会議の中で法令や通報義務等について研修を行っている。また、どのような関わりが適切なのか、日々の利用者へのケアを事例にあげて職員間で話し合っている。法人でストレスチェックを行ったり、職員の様子に応じて聞き取りの機会を設けるなど、職員の精神面への配慮も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適正な支援が出来る様に併設施設の相談員と連絡を取り、学ぶ機会を持ち活用出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って十分に説明を行い、理解を得ている。その上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にはサービス担当者会議の前に、ご意見や要望をお聞きし、入居者様には随時話しが出来る雰囲気や環境作りを行っている。	利用者からは日常の会話の中で意見を聞いている。利用者個々が意見を言いやすい状況を作り、食事の希望や過ごし方など、把握した意見を実践につなげている。家族には来訪時に意見を聞いていたが、コロナ禍のため、電話で聞く機会を増やしている。法人として家族を対象とした満足度アンケートを実施し、意見の聴取を行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや会議にて意見交換を行っている。業務改善の必要性があれば意見を取り入れている。法人としても人材活性化を用いて、職員の要望を発信する事が出来ている。	職員からは日々のミーティングや職員会議の中で意見を聞いている。年2回の人事考課や人材活性化調査などで上司や法人に意見を伝える機会がある。人事考課時には管理者が直接フィードバック面接を行っている。出された意見は日々のケアや運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回人事考課があり、個々の努力や実績、勤務状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部研修会に参加出来る体制が取られているが、今年度はコロナ感染予防の為、研修会が開催されていないので参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、外部との交流は出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族様に見学に来て頂き、雰囲気を知って貰うと共に不安や要望を受け止めながら、安心して頂けるよう心掛けている。入居後も不安無く、過ごして頂けるようコミュニケーションを取るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にこれまでの経緯、不安や困っている事を聞き安心して頂けるよう心掛けている。職員で情報の共有をし何でも言える関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に話しを聞き、現在必要とされているサービスを見極め、適切な対応に努めている。又必要に応じたサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを尊重しながら、出来る事、得意な事をして頂いている。その中で職員が教えて頂く事もあるので、そこでの関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やサービス担当者会議、毎月のお手紙等で日常の様子を伝え情報の共有を行っている。ご家族様の状況を理解し協力しあいながら支援している。	担当職員が利用者の様子を便りにして毎月家族に郵送している。また4ヶ月に1回写真を載せた広報誌を作成し、家族に行事や生活の様子を伝え利用者の状況の共有を図っている。利用者の要望に合わせて外出や衣類の準備等で家族の協力を得ているほか、必要に応じてケアプランに家族の役割を盛り込んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方々が、気軽に面会に来て頂ける環境である様努めている。ご家族様との外食も行って頂いていたが、今年度はコロナ感染予防の為、実施出来ていない。	家族に馴染みの方を確認し、面会や電話での関係継続を支援した。コロナ禍で馴染みの場所への外出や面会の機会も多くはないが、利用者が馴染みを感じられる話題で会話の機会を設けるなど工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立する事のないように、共有スペースでのレクリエーションやカラオケ等をする事で、関わり合う機会を設けている。定期的に席替えを行い、入居者様同士が話しやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族様との関わりを大切にしている。必要に応じて対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、本人の思いや希望を汲み取り支援を行っている。確認の困難な方でも、関わりを持ち寄り添うよう努めている。	日常の会話や表情などから思いや意向の把握を行っている。また居室や入浴時など1対1になる機会も大切に、じっくり思いを聞き取っている。把握した思いや意向は申し送りや記録に残し職員間で共有し日々のケアにつなげている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居まえの生活歴、状況や環境をご家族様や多方面からも情報収集している。入居後も日々の関わりの中で把握に努めている。	入居時にこれまでの暮らしについて聞き取りを行い、シートに情報をまとめている。居室の家具等の配置は家族に協力を依頼している。入居後に新たに得られた情報はアセスメントシートに追加記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方や、心身状態おしっかりと見極め、記録に残し会議やミーティングで情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の前に、担当者、計画作成者が中心となり職員全員から意見を記録にまとめ、ご本人や御家族の意向を確認し介護計画を作成している。	カンファレンスの前に職員からケアプランについての意見書を記入してもらい、意見書をもとに計画作成者と担当職員とでケアプランを作成している。利用者や家族の意向を聴き、ケアプランに反映させている。プランの実行は日々の記録の中に残し、計画作成者が記録をもとにモニタリングを行っている。	ケアプランの中により具体的な目標やサービス内容を盛り込み、さらに理念にある生きがいや人生の楽しみの実践等がモニタリング評価で表現されることで、益々利用者の思いの実現や生活の充実に向けた支援につながっていくことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態を細かく記録に残し、業務日誌や申し送りノート、会議で「情報共有し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に変化があれば早急に話し合い、見直しを行い、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の音楽ボランティアが隔週で来て下さったり、地域の行事に参加させて頂いていましたが、今年度はコロナ感染予防の為、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者前にご本人や御家族の意向を確認し、可能であれば併設の協力病院に職員付き添いにて受診している。協力病院以外の受診は御家族の協力を得てお願いしている。	意向を確認し、希望されれば同法人の併設病院の受診に移行し職員の付き添いにて受診している。かかりつけ病院にない診療科については入居前の受診先を継続し家族に付き添いをお願いしている。協力病院とは、特変があればいつでも相談できる関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、併設施設の訪問看護に来て頂いている。体調の変化等があった場合も、24時間相談する事が出来、アドレスや指示を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医療機関との連絡を密に取り、情報共有している。又、直接状態確認を行い、細やかな連絡や相談等を行い、早期退院に繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、に重度化や終末期に向けた方針を書面にて説明を行っている。ご本人や御家族様の意向を確認しながら、必要に応じて併設施設への入所の支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時に説明している。また、家族から相談の際には随時説明を行い、状況や方針を共有し不安のないように努めている。事業所での看取りは行わない方針であり、重度化の際は併設の法人施設や他の施設への住み替えを支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、隣接する病院に連絡し受診している。訪問看護に来て頂いた際指導を受けることもある。マニュアルに沿い、症状別の対応や連絡体制等が整備されている。	ヒヤリハットや事故報告をもとに事故発生時の対応を確認したり、職員会議内でAEDの研修を行うなど学びの機会を設けている。訪問看護師からは週1回の訪問時や24時間オンコールの体制で必要な指示や指導を受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を実施し、その後反省会や職員会議にて振り返りを行い、改善に努めている。地域の消防訓練に参加していたが、今年度はコロナ感染予防の為開催されていない。	年2回火災を想定した避難訓練を行っている。また地震や水害を想定した避難訓練も実施している。法人の管理栄養士が備蓄の食料や水の賞味期限等確認し管理を行っている。現在はコロナ禍で中止になっているが、地域の自主防災訓練にも参加し協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーについても充分配慮するよう努めている。	1日の大まかな流れはあるが、利用者個々の意向に沿った生活を支援している。排泄時や入浴時はプライバシーに配慮した対応を行っている。個人情報の扱いではファイル等の保管場所を定めたり、申し送り等で個人に関する情報を伝える際には利用者に伝わらないよう表現に工夫するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながらや、入浴時などで 1対1で関わる際にご本人の思いを聞き、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切に、急がせたり、焦らせる様な声掛けをする事のないよう努めている。本人の希望に添えるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際にご本人に、着たい服を選んで頂いたり、愛用している化粧品を使い、カットや毛染め等希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理や、時には味見等して頂いたり、お茶入れやテーブル拭き、後かたづけ等一人ひとりが出来る事をしている。	献立は職員が利用者の要望も取り入れながら作成している。食材は配達と買い物を組み合わせている。コロナ禍以前は週3回利用者と買い物を行っていた。調理では野菜の下処理、炒める、味付け、盛り付けなど随所で力を発揮してもらい、後片付けなども利用者が参加している。畑で野菜を育てたり、行事食などで食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎食の摂取量を記録に残したり、月始めに体重測定を行い、変化を確認している。栄養面は併設施設の管理栄養士に、献立に関しての指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、緑茶でのうがいを行い、必要に応じて個別に声掛けや見守りを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレを使用して頂けるよう促している。不快な思いをしないよう配慮し、支援している。	利用者の排泄状況を確認し、個々にあった誘導や見守り、排泄用品の準備等支援している。リハビリパンツ使用でも汚染なく過ごせるよう状況に合わせて定時誘導も行っている。関わりによりリハビリパンツから布パンツへと状態が改善した利用者もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に繋がる献立やおやつを提供したり、午前と午後に1回お茶の時間を設けている。他に体操を取り入れ身体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を基本として対応している。入居者様の気分や体調により、入浴日を変更する事もある。	週3回、午前入浴を支援している。利用者の希望や必要時には回数や入浴時間の変更は可能である。同性介助の希望にも応じている。1対1での気兼ねない会話の時間としても大切にしている。入浴剤は毎日使用し、柚子湯などの変わり湯で入浴を楽しむ工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事で外出したり、受診後に疲れた様子が見られた際には休んで頂いている。寝付けない方が居る時には一緒に過ごしたり、話を傾聴する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋が直ぐに確認出来る様管理されている。薬の変更があれば、業務日誌や連絡ノートを活用し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方にあった役割や作業をお願いしている。外出する事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染予防の為、買い物に行く事や御家族との外出や面会も、希望に添う事は出来ずにいたが、近くをドライブしたり、散歩したりできた。	家族とのドライブや人のいない場所での散歩など新型コロナウイルス感染症に配慮した外出を支援している。感染症対策を講じ、できる限り戸外へ出る機会をつくり気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望の物が購入出来る様に支援している。その方その際には職員と買い物に行っていたが、今年度はコロナ感染予防の為、行けず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があつたり、気分が落ちている時等御家族や、馴染みの方に電話出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに温度、湿度計を設置し心地良く生活出来る様に配慮している。季節にあった貼り絵を飾ったり、行事の際の写真を展示し、それを見ながら入居者様同士が談話されたりと、家庭的で落ちていた雰囲気を感じて頂く様に工夫している。	温度や湿度を管理し快適に過ごせるよう支援している。感染症対策の消毒やリビングや廊下のモップかけなど利用者にも協力してもらいながら行っている。季節に合った利用者の作品を飾り、楽しめる空間を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にソファが有り、独りになれる空間になっています。カラオケやゲーム等を楽しめる様な空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や置物、写真をお持ち頂き、好みの物を活かし、心地よく生活出来る様にしている。	利用者の思いのつまった私物を持ち込んでもらっている。テレビや椅子などの生活用品のほか、事業所で作った折り紙の作品や塗り絵の作品などを飾っている。家具などの配置は利用者の意向に沿っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口にネームプレートを用いて馴染みやすい雰囲気づくりをしている。浴室やトイレが分かりやすいように、工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				